

2019年8月25日（日曜日）

2208号（毎月5、15、25日発行）（大阪版）

1950年12月16日第三種郵便物認可

1部140円 月額400円（郵送料込月額120円）

平和新聞

発行 日本平和委員会

〒105-0014 東京都港区芝1-4-9 平和会館
電話 03(3451)6377 FAX 03(3451)6277

大阪版編集 大阪平和委員会

〒543-0012 大阪市中央区谷町7-3-4 新谷町第三ビル 210号
電話 06(6765)2840 FAX 06(6765)2837
E-mail:osk-heiwa@able.ocn.ne.jp http://www.osk-heiwa.org

被爆74年

被爆者の命あるうち核兵器廃絶を！

折鶴8千羽手向ける 原水爆禁止世界大会・長崎

8月6日の広島訪問で、大阪日赤病院の職員やその家族に折ってもらった8千羽の折り鶴を、広島原爆病院の原爆殉職慰霊碑にささげることができ、また被爆された2名の方のお話を身近に聞くことができました。

ひとりには原爆病院の慰霊式に車椅子で参加された方です。この方は原爆病院で看護師として勤務、被爆後不眠不休で看護を続けられました。もう一人は平和公園で碑めぐりガイドをしてくださった78歳の斉藤さんです。

被爆後のお二人の人生を思うと胸が詰まる思いでした。被爆者の命あるうちに核兵器をなくしたい。被爆国日本の果たす役割の重さ、改めて知りたくなりました。今回、一緒に参加してくれた大崎みき子さんが世界大会会場で大入会・新聞購読してくれ、感激でした。

吉田一江事務局次長 記



7〜9日原水爆禁止世界大会・長崎

7〜9日原水爆禁止世界大会・長崎が開催され、国内外から5000人（うち大阪300人近く）が参加しました。

大阪平和委員会からは地域組織として西淀川、住之江、堺など、職場組織として府高教、関西共同印刷所などが参加しました。

【7日 開会総会】

田上富久長崎市長が「核兵器をなくすのは市民の力だ」と連帯挨拶。オーストリアやメキシコなどの政府代表も核兵器廃絶に向け連帯挨拶をしました。稲嶺進前名護市長も登壇し「地方自治と民主主義を踏みにじり沖縄県辺野古基地建設を進める安倍政権を糾弾し、勝つまであきらめない」と決意表明しました。

【8日 14の分科会】

ここでは中村玉枝西淀川事務局長と上羽事務局長が参加した分科会2「朝鮮半島の非核化と日本の役割」の様子を紹介。

午前中は「平和・軍縮・共通安全保障キャンペーン」ジョセフ・ガーンソン議長、韓国「社会進歩連帯」のキム・ジンヨン政策・教育局長、川田忠明日本原水協全国担当理事らから提言がありました。

川田忠明さんの提言―「軍

備拡大や日米軍事同盟の強化ではなく、第9条など憲法の平和原則を生かした外交こそが、日本と東アジアの平和の道である

との国際会議宣言の一部を紹介し、国益とは国民の安全と平和、その土台となる世論形成に必要なものが、3000万署名とヒバクシャ国際署名だ。

午後はその提言に基づき討論。上羽事務局長は、日韓の草の根の交流について左記の発言をし、日韓両国が貿易問題などでぎくしゃくしている中だけに会場からひととき大きな拍手を受け、その後の討論の活性化に貢献しました。

「松井一郎大阪市長が8月5日、慰安婦問題はデマ」と発言したことに対し大阪平和委員会西晃会長名で抗議文を送付した。本会は2016年1月に韓国「ナヌムの家」から「慰安婦」被害者ハルモニを迎えて学習・交流会を成功させた。続く2月には韓国「興士団」の青年14人と大阪の青年15人が本会事務所で大こ焼きを食べながら交流した。そしてこの11月には徴用工問題で三菱重工の責任を追及し韓国で人望を集める高橋信・愛知県平和委員会理事長を団長にした「韓国平和ツアー―済州島・光州・ソウル」を大阪平和委員会として実施する

【9日 閉会総会】

府高教から出ている全教役員

の山田真平さん（大阪平和委員会会員*左写真中央）が子どもたちの輝く未来のために「ヒバクシャ国際署名」を広げていく決意を力強く語りました。



日本平和委員会交流会

世界大会中日の8日午後4時より日本平和委員会の交流会が実施されました。

千坂純事務局長は「各都道府県代表団の中に会員・読者をひろげよう」と呼びかけました。

岩本悟青年委員会責任者は10月の北海道ピースエッグへの各都道府県からの青年の派遣を要請しました。

この会にも稲嶺進・オール沖縄会議の共同代表が特別参加し、名護市長時代から朝5時に起床、体操し健康管理に努めてきたことなど裏話も交えながら心にしみる話をされました。

「たたかいはまだまだ続きます。今の政権を見れば、すぐに終わるといえるものではないで

よう。だからと言って、やめるわけにいきません。勝つまでは絶対に負けない。その闘い方も決して暴力に訴えない。非暴力で、辺野古ゲート前では機動隊にごぼう抜きされながらも日々座り込みを続けています。それだけしなやかに、したたかに続けていきます」

この会の前日、千坂純日本平和委員会事務局長からの依頼で上羽事務局長は稲嶺進さん（左写真）を宿泊ホテルまで車で送って行きました。



世界大会で仲間激増

大阪平和委員会は、7月の常任理事会で会員・紙誌読者を増やすため、①9・10月を「仲間増やし」特別期間、②その前の8月の原水爆禁止世界大会も大きな節目とすることを決定しました。

この決定と交流会での千坂純事務局長の提起に応え、中村西淀川事務局長など3人の役員が世界大会参加者に入会・新聞購読を訴えた結果、長崎で一挙に会員6人、新聞購読2人の仲間が増えました。



「慰安婦問題はデマ」発言に抗議

松井一郎大阪市長は8月5日「慰安婦問題はデマ」との暴言を吐きました。大阪平和委員会
は西晃会長名で6日抗議文を松井市長あてに送付しました。一部メディアでも取り上げられませんでしたので全文を掲載します。

「慰安婦問題は完全なデマ」発言に抗議し撤回を求める

愛知県内で開催中の芸術祭で、旧日本軍「慰安婦」を象徴する少女像を展示した企画展が中止された問題で、松井一郎・大阪市長は5日、「慰安婦問題というのは完全なデマ」などと言いつつ、「デマの象徴の慰安婦像は行政が主催する展示会で展示すべきものではない」と大阪市役所内で記者団に述べました。松井市長はさらに、芸術祭の実行委員長を務める大村秀章愛知県知事が展示の内容を「もっと精査すべきだった」などと述べ、「検閲」を当然視する立場も示しました。

日本政府は、1993年8月4日、慰安婦関係調査結果発表に関する河野洋平官房長官談話で「今次調査の結果、長期に、かつ広範な地域にわたって慰安所が存在したことが認められた。慰安所は、当時の軍当局により設置されたものであり、慰安所の設置、管理及び慰安婦の移送については、旧日本軍が直接あるいは間接にこれに関与した」

と述べた上で、「われわれはこのような歴史の真実を回避することなく、むしろこれを歴史の教訓として直視していきたい。われわれは、歴史研究、歴史教育を通じて、このような問題を永く記憶にとどめ、同じ過ちを決して繰り返さないという固い決意を改めて表明」しています。

今回の松井市長の暴言は、上記の日本政府の河野談話を否定するものであると同時に、歴史に謙虚に向き合う姿勢が皆無と言わざるをえません。憲法21条が保障する「表現の自由」をも真っ向から踏みこむものです。

大阪平和委員会は、今回の貴殿の発言に抗議し、撤回を求めます。

俳優座・有馬理恵さんの「一人芝居とお話」

—「釈迦内枢唄」ダイジェスト上演—

- 9月14日(土) 14:00 ~16:00
- 東成区民センター5F小ホール
- 客席数 200
- 上映協力券 1000円
但し、青年学生 300円
- 主催 大阪平和委員会
電話予約が多数あり!



福山功勝常任理事(名護在住)の名護通信

「爽やかだった沖縄の結婚披露宴」

吉居俊平と言う名前を覚えておられるだろうか。昨年9月の名護市議会議員選挙で、日本共産党から立候補し、県外者で知名度もなく、初挑戦でしかも上位当選した、26歳のイケメン青年議員のことである。福岡県出身、名桜大学卒。沖縄の新聞やテレビも大きく報道し話題になった。

選挙期間中は、全国から多大の支援を受け、本人も大奮闘。日毎に雄弁になる彼の訴えと、応援に駆け付けたお母さんの、心優しい子に育った「子育て時代の苦労話」は、市民の心を揺さぶるものであった。

8月11日の結婚披露宴は、那覇市の大きなホテルに、300人が集まった。新郎新婦が琉球装束に身を包み登場。華やかで盛大な披露宴であった。

来賓を代表し、まず共産党の国会議員、赤嶺政賢さんが挨拶。乾杯の音頭は、名護の市議会議員を永年務め、最後は県議会議員で退任した名護の生き字引、具志堅徹さん。そして祝辞は、現名護市長の基地推進派、渡具知武豊さん。「議会における吉居議員は真面目ですが、時々変化球の質問を投げってくるので困る」の発言に会場は大いに沸いた。前市長の稲嶺進さんもお夫婦で上席のテーブルに座っておられた。ほかに選挙運動中、見覚えのある仲間たちが沢山いた。皆晴れやかな笑顔で、新郎新婦を祝い周りの人と談笑していた。保革を問わず現職の名護市議会議員の皆さんも指笛を吹き、拍手をし、祝杯を挙げた。まるで芸能界の大スターの披露宴と見紛うほどの雰囲気だった。新郎新婦の知人友人たちが、それぞれのグループに分かれて、琉球独特の歌や踊りを披露した。「名護市議会だより」に吉居議員らの発案で議員の「ソフトボール大会」が楽しく開かれた記事を目にした。議会の中で人望があり、存在感ある議員に成長しつつあることを垣間見た。名護からは往復大型バスで移動した。バスの中も「呉越同舟」。帰りのバスは酔った勢いもあって追加の缶ビールを飲みながら大いに盛り上がった。祝いに「政治」は持ち込まない。琉球時代からの「平和のための不文律」でもあるのか、とまずは爽やかな披露宴を体験できたことをご報告しておきます。



今月の言葉「ジャーナリズムの弱体化の理由」

政治報道でジャーナリズムが弱体化した理由は三つある。①メディアの経営悪化、②官邸が自前の発信力をつけた、③長期政権で広報体制が強化された。経営悪化は新聞業界で顕著だ。新聞購読はネットの登場で激変した。急落する部数、広報収入の激減。…新聞もテレビ局も企業として規模が小さく、経営も不安定だ。本業は苦しく、多角経営に乗り出せば各方面に頭を下げる機会が増える。権限や情報を握る強者といいたい関係を持ちたいとの誘惑にかられる。(「世界」8月号メディア批評より)

《9月の行事案内》

- 4日(水) 軍学共同いらない!事務局会議 13:30 グリーン会館
理事会 18:30 当会事務所
- 7日(土) 日本平和委員会第2回理事会 13:30 東京
- 8日(日) 生野平和委員会学習会 13:30 区民センター
- 13日(金) 沖縄連帯行動 12:00 近鉄上本町駅前
- 14日(土) 有馬理恵「一人芝居と語り」14:00 東成区民センター
- 17日(火) ピース大阪に市民の声を! 18:30 当会事務所
- 21日(土) 東住吉母親大会「ザ・思いやりII」上映・上羽解説
- 25日(水) 組織委員会 18:30 当会事務所